

食の大切さ学んで

JA伊勢 児童 バケツ稲に挑戦



JA職員⑤の指導の下、バケツ稲作りを体験する児童

科の授業で調理し、食べる予定。

指導に当たった同JAの担当者は「米ができるまでの過程を知り、米作りの楽しさや大変さを経験してもらうことで、食の大切さを学んでほしい」と話した。

任を持って管理を行う。収穫した米は家庭

【伊勢】伊勢市立明倫小学校の5年生48人は8日、バケツで手軽に稲作を体験することができた「バケツ稲作り」を行った。これは総合的な学習の一環で、児童らが実際に稲作を体験することで、農業への関心を育むことが目的だ。

JA伊勢営農部水稻支援課の職員が、土づくり、苗の定植、定植後の栽培管理について指導し、児童らは楽しみながら作業に取り組んだ。また、食農教育を担当する同JAくらしの活動推進課の職員も指導に当たり、土づくりの補助や児童らの質問などに答えた。

今後は、児童らが責